

鷹栖地区 第2回目に話し合った内容 (2018.12.6)



テーマ：10年後のわくわくする鷹栖市街地をデザインしよう

「どうすればお店の利用（にぎわい）が増えるでしょうか」

■他と同じ、どこも同じでなく、それぞれカラーがあり混ざり合うのが魅力

飲食店さんがそれぞれ看板メニュー、個性があるように、それぞれにカラーがある多様なお店があることが中心市街地全体の魅力を高める。鷹栖町ならではのお店の特徴が必要。空き店舗に若い人が入ることは、覚悟を持って地域住民のほうを向いて努力してくれるなら歓迎すべき。行政の支援は補助金交付ではなく、開業者に寄り添って希望を実現させ、地域のニーズとつなぐこと！

■お店の外でメニューや価格、雰囲気わかる工夫をして入りづらさ解消

店内の雰囲気や価格、メニューや取り扱い商品がわかれば、「初めてで入りづらい」が解消される。看板や写真を利用し、「わからない」を「利用したい」へ。

■子どもが安心して利用できるお店、子どもが気軽に立ち寄れるスペース

おつかいなどで、子どもが安心してお店を利用し、メインストリートを子どもが歩く姿が増えると、地域の大人の見守りにもつながり、にぎわいにつながっていく。子どもが集まる場所には親も行くことにつながる。

■飲食店はグルメイベントや鷹栖版ミシュランガイドで利用のきっかけを

「ボジョレーの会」のようなお店によるイベントがあると誘い合って行くきっかけになるかもしれない。また、例えば常連さんによるおすすめメニューの紹介冊子など、身近に感じられる工夫を。

社協のはしご酒を、期間を増やしたり、子どもメニューで子ども連れやママ友で参加しやすい雰囲気にもすることも。

■飲食店の「お持ち帰りメニュー」で来店者増を

「今日はおかすが少ない」「コンビニなどではなく、顔の見える人が作ったものが良い」「帰りにちょっと寄って買って帰りたい」などのニーズに対応することで、新たに利用してもらえる親しみづくりを。

■既存イベントをうまく活用しよう！日常へとつながる「心のにぎわい」を

ジョギングフェスティバルなど、たくさんの方が来町する機会を商機としてもっと生かせる取り組みを。また、大人が夢中になって楽しめるイベントづくりをしていこう。さらに、イベントは非日常なので、イベントの盛り上がりを単発で終わらせず、日常に継続、移行できるような「心のにぎわいづくり」が必要だ。

■今ある資源をどう使うか若い人をたちが考え、努力していくことが大切

住民センターを活用して鷹栖の産品が一堂に会した場所の常設、体育館に誘導できるものの案内。また、シニア世代の資格、特技を生かして活躍できる場をつくる視点も。

■空き店舗、空きスペースの活用

空き店舗や空きスペースを活用して、事業所を誘致したり交流を生む。例えば鷹栖高校の空き教室に事業所が入ることができれば、高校生との交流で特色ある取り組みができるのでは。

テーマ：10年後のわくわくする鷹栖市街地をデザインしよう

「暮らしの不安を取り除くためにできること、必要なこと」

■スーパーがほしいなら「住民参加のお店づくり」をするべき

ただスーパーが出店すれば良いのではなく持続しなければ意味がなく、そのために住民参加のお店づくりをしなければならない。「住民が責任を持って使うこと」と、「お店側も責任を持って住民ニーズを把握する努力をして、求める品物を提供すること」のそれぞれ覚悟が必要。

■複数の支援を組み合わせで工夫して、生活の不安を解消

買い物など生活サポートは絶対的な1つの解決策があるのではなく、組み合わせの視点が必要。①近場に住む家族の支援（頻繁にというわけにいかないので月に数回）に、②地域の支援で補うかたちが実現すると安心につながる。さらに宅配サービスなどの利用も組み合わせる。